

平成 30 年 4 月 3 日

軽井沢町議会
議長 市村 守 殿

軽井沢町議会議員
押金 洋仁

研 修 報 告 書

1 研修日程

平成 29 年 10 月 24 日 (火)

2 研修先及び目的

地方議会議員セミナー in 東京

開催場所：東京 (八重洲)

研修テーマ「医師・看護師不足と地方議会改革」

講師 城西大学経営学部教授 伊関友伸

3 研修内容

■ 医師不足の原因

- 1 少ない医師数
- 2 医療の高度化・専門化
- 3 インフォームドコンセント・医療安全
- 4 女性医師の増加
- 5 劣悪な労働環境
- 6 新臨床研修制度・医局制度の崩壊
- 7 患者のコンビニ医療指向

■ 医師数の伸び悩みと都市偏在

- 国民皆保険の達成と高度成長→国民の受診機会の増大
都市部を中心に民間病院の新設相次ぐ→昭和 20 年代 過剰だった
医師が 30 年代に不足し始める→一県一医大構想＝歴史の浅い (弱い)
大学が各地に →大学間に明確な格差が生じる
→大学の設立の時期は各大学の持つ医師供給能力に大きな影響を与えている
→歴史をふまえた対応が必要

- 新臨床研修制度＝新人医師が基本を身につける制度＝新人医師が
研修先を選日、病院側の希望と突き合わせる制度→多くの医師が
都会の大病院を選ぶ結果に
→大学医局に若い医師が少なくなった→本院維持のため、派遣して

いた病院から医師を引き上げる

- ・ ・ ・ ・ 大学医局からの派遣に頼っていた自治体病院、公立病院から医師がいなくなる

■ 医師が勤務する地域とするには

- 行う医療を明確にする
- 医師は研鑽を積み、技術を身に付けたい→医療技術を学べる環境づくり
- 適切な報酬
- 住民から感謝される職場

■ 寄附講座

- 福井県高浜町が、福井大学に年間2千万円、寄附を行い講座を開設
→社会保険高浜病院と和田診療所の中に研究室を設置
- 井階教授と地域住民が健康のまちづくりを進める
→医師たちが自宅巡回するなど、地域で医師を育てる試みを進めた結果、この町で働きたいという研修医を含めた医師たちが増えてきた

■ 看護師の雇用をいかに図るか

- 看護師の資格制度→若い看護師にとってキャリアアップである資格の取得は重要である
- 認定看護師→特定の看護分野において熟練した技術と知識を用いて高い看護実践ができると認定
- 報酬→人材不足から民間の若手看護師の報酬が自治体病院のそれを超えていることも少なくない→初任者調整手当を創設することも考える

■ 地域医療崩壊の原因は住民の心も中に

- 住民の孤立と不安が医療資源の過剰な消費を呼ぶ→病院は住民の不安を解決できない
- 医師と病院を疲弊させるものとして自分の体への「無関心」と「人任せ」がある。→人と人をつなぐことが重要
- 報酬→人材不足から民間の若手看護師の報酬が自治体病院のそれを超えていることも少なくない→初任者調整手当を創設することも考える

■ 議会・議員の役割

- 勘違いをした議員の暴言でかえっておかしくなる自治体病院も
→医療や経営について勉強したうえで発言する必要がある。

Ex:銚子市立総合病院、町立松前病院の院長退職問題の例

- 北海道八雲町議会が行った地域医療を考えるセミナー

→議会が企画・運営 多様な立場の参加者で「地域の病院を残すには」
というテーマでグループ討議→各自が行動する必要性を認識

◎考察

講義の前半は現在、とくに各地の自治体病院や公立病院で顕著な医師不足がなぜ起こっているのか、その端緒から歴史的な流れを追いながら解説を受けた。そこからは、社会構造の変化に伴うものもある一方、ときの福祉政策の移り変わりにより、様々な制度が打ち出されたことから、医師数が増えたり減ったりしてきたが、そのたびに地方の公立病院がこうした歴史の流れに翻弄されてきた様子が理解できる。また、未だに医師派遣に強く関係する大学医学部の設立時期や経緯からくる影響力も見逃せない点であり、医師不足を考えるとときには、必ず突き当たる壁であることもうかがわれた。

後半では、こうした医師・看護師不足を解消するために注目される取り組みの紹介がなされた。医師や看護師の立場からみた研修制度や寄附講座も必要な施策だが、地域住民の関心と心遣い次第で問題解決に向かう点も非常に興味深かった。住民の代表である議員は、地域医療の問題がどこにあるのかという点を客観的に、また多角的に研究することがまず求められ、それにより、誤解の解消とお互いの現状を正しく理解する姿勢が必要であることを学んだ研修であった。今後、病院が真に魅力的な職場となるような環境づくりも必要であろう。